（別紙２）

論文審査の結果の要旨

学位申請者 上山和雄
論文題目　北米における総合商社の活動　―― 1896～1941 年の三井物産 ――

本論文は、主に第一次、第二次両世界大戦間期の北米における三井物産の活動を、アメリカ合衆国国立公文書館が所蔵する三井物産在米支店からの押収文書を用いて明らかにしたＡ5 判 560 頁の大著である。

序章では総合商社史の研究を概観し、従来の、三井物産の発展を前提としてその由来を探る予定調和的な研究や、取扱商品に即した研究では三井物産の全体像が見えにくいことを指摘する。そして、三井物産が太平洋をはさんだ日本・アジアと南北米においてどのような商品を、いかなる組織によって、どのようにして集貨・輸送・販売したのかを在米支店の活動を中心として具体的に明らかにすることを課題として設定する。第 1、2 章では 1896 年のニューヨーク支店再開から第一次大戦期までの活動、第 3 章で戦間期三井物産全体の営業政策を概観した後、3 つの支店・出張所、外国間貿易、4 つの主要貿易商品、メキシコ市場、海運、について章が立てられ、終章では戦前期における日米貿易の終焉が扱われる。

本論文の最大の特色は、日米開戦による接収という偶発的な要因で合衆国政府によって保存されてきた日系企業史料のうちでも最大の、2 千ボックスにおよぶ史料群を精査し、海外支店の一次史料であるというその性格を生かした形で歴史叙述を行ったことにある。この史料を用いた先行研究は三井物産の機械取引や海運などに問題を絞って、史料を部分的に活用したものにとどまる。依拠した史料のうち最も基本的な部分は申請者が 1997 年に編集した『横浜市史Ⅱ 資料編６』として翻刻刊行されているが、本書はそれ以外の部分も広く活用し、各商品については、取扱商品となった背景や他の業者も含めた取り扱いの変化も当該史料群にとらわれない広範な調査によって書き込まれている。これにより、めまぐるしく変化する天然資源の存在状況、為替、不買運動を含めた市場などの条件を背景に、常に新たな取扱商品や市場を開拓し、活動の重点を変えながら営業を続けた三井物産在米支店・出張所のありようや、それを支える社内・社外の勘定制度や海運の意味が生き生きと描き出され、申請者が課題とした史実の具体的描写の意図はよく果たされている。

一方で、この研究により、先行研究ないし社史で提示されて来たこの時期の三井物産のありようをどのように修正し、さらには総合商社の成り立ちや活動についてどのような議論を提示するのかは明示されていない。しかし、申請者は序章で「「総合商社論」を正面から論じようとするものではない」としており、意識的に発見の性急な意義付けを回避することで、具体的事実の描写と、その範囲内での事実相互の因果関係の提示の正確さを得ようとしており、これは実証史学の学問的伝統からして許容されるべき選択であろう。

上記のような成果に鑑み、本委員会としては本論文が博士（文学）の学位に十分相当するものと判断した。